

アジア現代女性史

Contemporary Women's History in Asia

2017
第11号



アジア現代女性史研究会

北京レイプ事件

杜春媚¹

沈崇事件

伝えられるところでは、第二次世界大戦の終結から1年を少し過ぎた1946年のクリスマス・イブの夜、19歳の北京大学生であった沈崇が、兵卒のウォーレン・プリチャードの手助けを受けた酒に酔ったウィリアム・ピアソン伍長に3時間にわたって酷寒の露地でレイプされた。ニュースはすぐさま中国全土に広がり、事件はグローバルメディアのセンセーションを呼んだ。中国の主要都市で大規模な抗議行動が即座に起こり、約1年にわたって続いた。中国の主要都市で大規模な抗議行動が即座に起こり、約1年にわたって続いた。学生と左翼知識人はレイプ犯の処罰と米軍の中国からの完全撤退を要求した。米國務省、米軍、そして中国国民政府（国民党）の高官は皆、この予期せぬ外交的危機に関する大規模な論争に巻き込まれた。中国共産党の地下学生黨員はデモンストレーションを組織し、その主要なメッセージを反アメリカ帝国主義に置いた。1947年1月、2人の被告は最初の審理の後、北京での米軍法会議で有罪判決を受けた。にもかかわらず、その評決は6月にワシントンの海軍司法官によって証拠不十分として覆され、ピアソンは釈放された。

この北京レイプ事件は中国の歴史の中で重要な事件である。それはトルーマン大統領の中国での私的代表であるジョージ・マーシャル将軍によって計画された中国共産党と国民党の和平交渉の最終段階で発生し、1947年8月に撤退するというアメリカの決定を加速させ、内戦における国民党の最終的敗北に寄与した。それは中国人のアメリカ認識の分水嶺となった。「フライング・タイガー」というニックネームで呼ばれた最初のアメリカ人ボランティア・グループが利他的なアメリカ人の良い例だったとすれば、酔っ払った海軍軍人のレイプ犯は、今ではその「走狗」としての国民党政府と共にアメリカ新植民地主義の象徴となった。中国の知識人は1世紀以上にわたって民主主義、自由、反帝国主義、自決というアメリカの理念に惹かれてきたが、今となっては、中立という主張にもかかわらず腐敗した政府を支援していることや内戦と中国人の苦難を長引かせていることなど、その多くが中国の問題への帝国主義的介入だとみなしているアメリカの現実政治に裏切られたと感じていた。毛沢東は北京レイプ事件に言及しつつ、1949年の論文のなかで、「治外法権は撤廃されたが、レイプ犯はアメリカに戻り、釈放されたが、これも『友情のあらわれ』の一つなのである」²と皮肉っぽく書いている。

¹ 筆者は現在、米国のウェスタン・ケンタッキー大学歴史学科の助教授。2009年にプリンストン大学で博士号を授与。Eメールは chunmei.du@wku.edu。

² 原文は、治外法権は“废除”了，强奸沈崇案的犯人回到美国，却被美国海军部宣布无罪释放，也算一项“友谊”的表示。《毛泽东选集》，“‘友谊’，还是侵略？”一九四九年八月三十日。〈治外法権は「撤廃」されたが、沈崇強姦事件の犯人がアメリカに帰り、アメリカ海軍省から無罪釈放をいい渡されたのも、これもまた「友情」のあらわれの一つなのである。〉『「友情」か侵略か』（1949

戦場の状態

北京レイプ事件の背後にある政治的・外交的ストーリーは、学問的注目の中心となっている。中国の研究者たちは内戦の政治的文脈の中でこの事件の重要性を強調してきた。「学生運動と蒋介石反動政権との闘争」は、軍による「第一の戦場」に加えて、「第二の戦場」を形成したという 1947 年の毛沢東の発言を受けて³、それらの研究者たちはこの運動が内戦における国民党政府の最終打倒にいかに関与したかを示そうとした。⁴ 研究者のなかには、とりわけ国民党と共産党の間の政治的競合に焦点をあてる者もいる。左双文は、中国第二歴史档案馆および台北の国史館に所蔵されている国民党政府の資料を利用しつつ、沈崇事件は政府に対する学生の抗議であるように見えるが、それは実際には大衆の支持、すなわちいわゆる「第二の戦場」をめぐる共産党と国民党の間の政治的競争であったと主張している。偶発的だと思われる事件が国民党政府にとって大きな政治的災難へと発展したのは、共産党の動員と支持のためである、と彼は述べている。⁵

中国の研究者、そしてある程度までは大衆も、この事件が共産党によって操作された、あるいは、つくられたものであるかどうかについて長く論争してきた。沈は共産党のスパイで、その主張は捏造されたものだとして推測する者さえいた。他の者は学生の抗議を純粋に愛国的なものだとして防衛し、大衆的デモンストレーションおよびそれに付随した政府の威信の低下を蒋介石国民党政府の無能さによるものとした。近年の論争は、2 つの陣営の間のそのような鋭い分裂を強調し、研究者から同時代のジャーナリストや記者たちに至る広範囲の関係者を惹きつけている。謝泳は 2010 年の論争的な論文のなかで、沈崇事件は中国共産党によって計画されたものであり、沈は実際にはレイプされていなかったと推測しているいくつかの情報源を提示している。⁶ 彼はまた、中国でのアメリカ人による残虐行為の先例に比して学生たちの怒りを刺激した多くの文化的要因、とりわけ性、レイプ、異人種間のレイプに関する中国人の保守的な考え方についても言及している。彼は、辱められたと感じたという「感情的」要因を、この運動の背景にある最も強力な要因とみなしている。謝の主張は強力に広範囲に及ぶ反応を引き起こした。彼の主張に反対する者は、沈崇が本当にレイプされたのかどうか、彼女が当時共産党の地下黨員であったのかどうか、事件はすべて共産党によってつくられたのかどうか、事件の本質は個人的で法律的なものなのか、それとも民族的で政治的なものなのかなど多様な問題に関して、彼の見解に異議を唱えた。こうした発言をした人々は、

年 8 月 30 日) 毛沢東選集第四卷、外文出版社

³ 原文は、「中国境内已有了两条战线。蒋介石进犯军和人民解放军的战争，这是第一条战线。现在又出现了第二条战线，这就是伟大的正义的学生运动和蒋介石反动政府之间的尖锐斗争。」《毛泽东选集》，一九四七年五月三十日。 <中国の国内にはすでに二つの戦線ができています。蒋介石侵入軍と人民解放軍との戦争、これが第一の戦線である。いままた、第二の戦線ができた。偉大な正義の学生運動と蒋介石反動政府とのあいだの先鋭な闘争がそれである。> 『蒋介石政府はいまや全人民の包囲のなかにある』(1947年5月30日) 毛沢東選集第四卷、外文出版社

⁴ 例えば、金冲及：《转折年代：中国的 1947 年》，生活·读书·新知三联书店 2002 年版；汪朝光：《中华民国史》第 3 编第 5 卷《反战运动与反美运动》，中华书局 2000 年版；胥佩兰：《沈崇事件和全国抗暴运动》，上海人民出版社 1997 年版；廖风德：《学潮与战后中国政治》，台北，东大图书公司 1994 年版；沙健孙：《论抗暴运动》，《近代史研究》1984 年第 4 期、を参照のこと。

⁵ 左双文：《1946 年沈崇事件：南京政府的对策》，《近代史研究》，2005 年第 1 期

⁶ 谢泳：《个人遭遇如何成为公共事件——以一九四六年发生的沈崇事件为例》，《读书文摘》2010 年第 2 期。この論文は 2004 年の彼のスピーチにもとづいている。

謝を「軽率」であり、「事実に反した発言」を行い、「歴史と被害者の双方に対して失礼だ」と非難した。⁷ 興味深いことに、そのような論争は国民党と共産党が積極的に世論に影響を与えようとした事件当時の論争を反復するものである。

英語圏の研究者の多くはまた、現代における中国学生運動の伝統の中でこの事件を考察している。例えば、ジェフリー・ワッセルストームは、『20世紀中国における学生の抗議』というタイトルの包括的な書物のなかで、このレイプ事件によって引き起された「反米抗暴」運動を含む1940年代中期の学生の闘争について論じている。著者は、ストライキ支持派の学生と反対派の学生との間の闘争に焦点をあて、共に学生コミュニティーを代弁していたと主張している。彼はまた、過去のデモンストレーションとは異なって、地方当局がこのレイプに対する学生の怒りが本物であることを認識し、学生に対して積極的に警察の保護を提供したことを指摘している。⁸

在米の中国人歴史家であるチャン・ホンは、彼女の本の「沈崇事件と抗暴運動1946-1947」というタイトルの章の中でこの事件を詳細に論じている。彼女はこの事件を第二次世界大戦後の時期の変化しつつあった中国知識人の米国認識という文脈で考察し、このレイプ事件は巨大な象徴的意味合いを帯び、「国恥」のレベルにまで高められた、と主張する。彼女はまた、アメリカ帝国主義のイメージを全国的に広めた急進派の学生と共産党が政治的に勝利し、国民党と米国政府は敗者となった、と指摘している。⁹

最近の英語圏の研究者の中には、この事件の文化史、とりわけジェンダーが果たした役割により注目を払う者もいる。ジェームス・クックは「浸透と新植民地主義：沈崇レイプ事件と反米学生運動1946-1947」というタイトルの論文において、この事件のなかでレイプと主権がいかんにして象徴的に結びつけられたかを示している。彼は、学生指導者たちは典型的な「閨秀」、すなわち純潔で貞節な処女という被害者のイメージを組み立て、被害者と中国人女性にきわめて伝統的な役を割り当てた。クックはさらに、このイメージは中国における家父長による女性の純潔の保護という伝統的な物語を喚起し、学生のナショナリズムの保守的側面を示した、と示唆している。¹⁰ ロバート・シェファーは2000年の論文の中で、性暴力がいかんにして米国の外交関係にダメージを与えたかについてのみならず、この事件にみられるように、米国の国務省と軍部の間でその中国政策に相違があったことを示している。シェファーはまた、米国国立公文書館の資料や当時の新聞記事を用いて、アメリカの左翼と右翼の双方とも、中国人の憤りについての理解が欠如していたことを示唆している。¹¹

⁷ 马句、宋伯:

《沈崇事件与抗议美军暴行再回顾》，《百年潮》，2010年第4期。哈米：《沈崇案：质疑的质疑》，《博览群书》，2010年第12期。石天河：

《关于“沈崇案”及其他》，《书屋》，2010年第10期。丁磐石：

《也谈谈我对“沈崇事件”的见闻》，《书屋》，2011年第4期。

⁸ Jeffrey N. Wasserstrom, *Student Protests in Twentieth Century China* (Stanford University Press, 1991), 240-276.

⁹ Zhang Hong, *America Perceived: The Making of Chinese Images of the United States, 1945-1953* (Westport, Connecticut: Greenwood Press, 2002), 77-118.

¹⁰ James Cook, “Penetration and Neocolonialism: The Shen Chong Rape Case and the Anti-American Student Movement of 1946-47,” *Republican China* 22 (1996): 65-97.

¹¹ Robert Shaffer, “A Rape in Beijing, December 1946: GIs, Nationalist Protests, and U.S. Foreign Policy,” *Pacific Historical Review* 69, no. 1 (2000): 31-64.

これらの研究は、北京レイプ事件の単なる政治的側面を越えて、様々な社会文化的な要因によるその感情的なアピールについて説明しようとしている。にもかかわらず、それらは性差、階級的バイアス、人種差別が絡み合った要因が、この事件に直接に関わった、あるいは、事件を間近で見えてきた中国人とアメリカ人エリートの間でいかに作用したのかについて十分に論じていない。加えて、それらの研究はこの事件を真にグローバルで包括的な文脈の中に位置づけていない。

第二次世界大戦後におけるアメリカ人兵士による性暴力は、比較的新しく刺激的な研究分野である。フランス人の歴史家メアリー・ロバーツは『兵士たちがしたこと』の中で、第二次世界大戦においてアメリカがヨーロッパを解放したという「良い戦争」の神話をあばき、米軍がフランス人女性は非常に好色で、たやすく兵士たちを刺激することができるという神話をいかに広め、利用してきたかを明らかにしている。彼女はまた、無規制の売春、レイプ、性病など結果として生じたカオスを検討することで、支配と主権をめぐるアメリカとフランスの間の政治的緊張について論じている。¹² ロバーツは、フランスでのアメリカ人兵士の刑事訴追において、人種がいかなる役割を果たしたかを示しているが、より論争的な『第二次世界大戦期のヨーロッパにおけるレイプとアメリカ人兵士たち』では、ヨーロッパでアメリカ人兵士が犯したレイプを詳細に調査し、起訴された黒人兵士の数が不釣り合いに多いこと、および、白人兵士と比べると彼らに対する処遇が厳しいことを示している。¹³ 日本と韓国における米軍兵士の性的不品行と暴力についても研究がなされている。¹⁴ 例えば、『同盟の中の性：米韓関係における軍事売春』という本は、戦後の韓国での米軍基地周辺での売春を考察し、100万人を超える「慰安婦」の生が、米国と韓国の軍事政策において—その最高レベルにおいてさえ—果たした役割を示している。¹⁵ サラ・コヴナーは『占領権力』の中で、占領期の日本の性産業について研究し、それが国際的な歴史と日本自身の売春に対する態度にいかに影響しているかを示している。¹⁶

北京レイプ事件は戦後のアメリカ人による性暴力に関するグローバルな文脈の中で研究されるべきである。一方では、アメリカ人のGIの振る舞いと中国人の反応は、世界の他の場所で起こっていることを反復している。他方では、米軍のプレゼンスに対する広範な反感の存在にもかかわらず、私たちが最も深刻な危機を見出すのは、おそらく中国においてである。すなわち、北京レイプ事件は、冷戦の時代の世界における反米主義を告げたのである。それゆえ、北京レイプ事件の包括的研究は、第二次世界大戦直後の時期のグローバルな文脈における類似性と差異の双方に焦点をあてねばならない。

政治の分野では、私は北京レイプ事件を、中国史のなかでの孤立した出来事ではなく、より広く、アメリカが「自由世界のリーダー」としての自らの役割を力強く主張し、各国およ

¹² Mary Louise Roberts, *What Soldiers Do: Sex and the American GI in World War II France* (The University of Chicago Press, 2013).

¹³ J. Robert Lilly, *Taken by Force: Rape and American GIs in Europe during World War II* (Palgrave Macmillan, 2007).

¹⁴ 例えば、Saundra Pollock Sturdevant and Brenda Stoltzfus eds., *Let the Good Times Roll: Prostitution and the U.S. Military in Asia* (New Press, 1993) を参照のこと。

¹⁵ Katherine H.S. Moon, *Sex among Allies: Military Prostitution in U.S.-Korea Relations* (Columbia University Press, 1997).

¹⁶ Sarah Kovner, *Occupying Power: Sex Workers and Servicemen in Postwar Japan* (Stanford University Press, 2012).

び地域的な問題に大規模に介入するなかで、中国が冷戦時代において出現しつつあった反アメリカ帝国主義のグローバルな言説の一部となったグローバルな契機とみなす。この事件は、この時代の他のアジアの反米事例と数年後の朝鮮戦争における中国の急進的な反米主義との比較研究を可能にしている。外交的交流、軍の報告、新聞報道、個人の日記や回想録など豊富な記録が、いかに複雑で微妙な社会文化的要因が、アメリカの政治的・軍事的介入をめぐる過去数十年に蓄積された緊張と結びついて、この中国そして第二次世界大戦後の世界で最初の反米危機へと発展したのかを説明することを可能にしてくれている。さらに、宣教師の期待、軍事援助、新植民地主義的野望、外交的挫折、そして共産主義への恐れがないまぜとなった20世紀における米中の相互関係の複雑な歴史に関する洞察が得られるのである。

グローバルな出来事：人種、階級、ジェンダー、反米ナショナリズム

冷戦と中国の歴史に関する多くの古典的または最近の研究のおかげで、私たちは今では米国の中国政策の失敗、フランス、韓国、日本、フィリピンなど他国での米軍による性的侵害と虐待、現代における中国の台頭するナショナリズムについて多くのことを知っている。にもかかわらず、既存の研究はいくつかの重要な問題について完全には答えていない。例えば、中国その他でのアメリカ軍の虐待の膨大な例にもかかわらず、この事件はなぜ中国のエリートの間でそのような急進的で広範囲の反応を引き起こしたのか？ また、従来ナショナリズムが広く反清、反帝国主義、反日本感情を通して形成されてきたなかで、この新しい反米主義と1945年から1948年間の中国のナショナル・アイデンティティーとの間にはどのような関係があるのか？ この2つの問いかけは、米中の相互関係の困惑させる側面についての私たちの理解、そしてより広く冷戦の歴史、ジェンダー史、世界における反米主義についての私たちの理解にとって中心的なものである。人種、階級、ジェンダーという絡み合った要因が関係する北京レイプ事件は、私たちがこうした問いにより良く取り組むことを可能にしている。

人種差別は双方の側の注目を刺激した。一般的な文化的な傲慢さと鈍感さに加えて、レイプ犯であるアメリカ人兵士の発言と振る舞いは、現地の人々との間の軋轢において重要な役割を果たした。アメリカで教育を受けた北京の官吏である沈の叔父は、被害者が滞在していた彼の家で、尊大な態度の米軍の調査官に、アメリカで黒人が白人女性をレイプしたら死刑になるのに、中国人をレイプした白人はなぜ無罪となるのか、と尋ねている。¹⁷ 彼はアメリカの多くのエリートたちと同様に、過去5年間にわたって強烈なメディアの注目をひいてきたスコッツボロ事件を見守ってきただろう。北京レイプ事件は、9人の10代の黒人少年が2人の南部の白人女性をレイプしたという虚偽の容疑で有罪判決を受けたスコッツボロ事件の裁判の最終段階の時期と一致していた。

階級的地位もまた、この事件をめぐる議論の核心であった。ピアソン被告は、被害者が彼を誘い、金のためにセックスを申し出たと主張し、また、あるアメリカ領事の報告は、「良い家系」の女性にとって、「夜遅くに1人で映画を見に行く」ということは普通のことでないと述べている。¹⁸ 現場に駆けつけた中国人警察官は、被害者が自分は大学生だと言い、学生

¹⁷ 記者、「被侮辱与损害的：沈崇会见记」，in《书报精华副刊》，1947年第4期，第18-20页

¹⁸ 劉小清，「<燕京新聞>追蹤報導沈崇事件」，in 民國春秋 2006年第6期，第18-19页。

であることを証明するために「私はあなたの友達です」(I am your friend) というこの米軍兵士の言葉を正確に訳すと、まず被害者の顔を平手打ちしたのであった。¹⁹ 彼女の道徳的品位についての疑いがおさまったのは、彼女が十分な資産を持つある有名な一族の出身だという証拠が表面化した後のことであった。

当時の人々でさえ、上海での人力車引きの殺害、武漢での既婚の中産階級の女性に対する集団レイプ、無謀なアメリカ人ドライバーによる何百件もの交通死傷事故など、最近のアメリカ人の暴虐行為のどれも、北京レイプ事件に対してと同じレベルの反応を引き起こしていないということに気づいていた。中国人兵士もレイプを行っているというアメリカ人の挑発に対して、中国の学生たちは「中国人兵士は農民に手を出すだけで、知識人を襲ったりしない」と単刀直入に述べている。²⁰ 全体としては、すべての中国人が対等で、すべての女性に保護すべき価値があるわけではなかった、ということである。沈崇が「良い家系」であることは、中国人に対しては、彼女には性的経験がなく、卑しく酔っ払った「セックス・ウルフ」と自発的に性交する意思など持たない良い娘だということを確認し、彼女の潔白を認めるものとなった。

男性が支配的な学生コミュニティにとって、エリート若き女性に対するレイプは、中国の主権に対するレイプおよびアメリカによる中国への政治的・経済的浸透を象徴するものであった。彼らの傷つけられた男らしさと反米愛国主義の間には、明白なつながりがあった。1928年には、南京にあるアメリカのキリスト教系大学の男子学生たちが近くの女性伝道施設の女子学生たちに、イギリス人兵士と帝国主義の小型砲艦でダンスをしたと抗議したことがあったが、女子学生たちは男子学生を、古臭く、私たちが外国の男性を惹きつける魅力があることにおびえていると言って異議を唱えた。²¹

中国人は19世紀にヨーロッパの植民地主義者が最初にもたらしたこうしたきわめて人種差別的なヒエラルキーを受け入れ、そしてある程度まで擁護していた。彼らはまた、日本人が描き出した実利主義的で快楽主義的なアメリカ人像に影響を受けていたのかもしれない。太平洋戦争期の日本は、アジア人および自国民に対する反米宣伝に長く関わり、アメリカ人を「自分たちを傷つける巨大な性器をもった悪鬼のような人物」と描き、人種差別的・性的な恐怖を呼び起こしてきた。²² 米国による占領に備えて、日本は大規模なレイプへの恐れから、やってくるアメリカ兵の慰安のために職業的売春婦と一般女性を雇った。

しかし、この物語の性とジェンダーの側面は、先行するいくつかの研究が指摘しているように、貞淑な中国人女性が放蕩な西洋の男に穢され、それゆえ必死になって男性の庇護を求めるといった物語よりも複雑である。米兵の中国人女性との関わりというより広い社会的文脈により緊密な注目が払われるべきだ。西洋人の心の中での上海は、19世紀以来、長く性的

¹⁹ 記者，“被侮辱与损害的：沈崇会见记”，in《书报精华副刊》，1947年第4期，第18-20页

²⁰ Robert Shaffer, “A Rape in Beijing, December 1946: GIs, Nationalist Protests, and U.S. Foreign Policy,” *Pacific Historical Review* 69, no. 1 (2000): 40 を参照のこと。

²¹ Gael Graham, “The Cumberland Incident of 1928: Gender, Nationalism, and Social Change in American Mission Schools in China,” *Journal of Women’s History* 6, no. 3 (Fall 1994): 35-61.

²² John W. Dower, *Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II* (New York: W. W. Norton & Company, 1999): 27-47.

放縦、売春、西洋の男にとっての中国人女性の利用価値、と結びつけられてきた。²³ 大衆雑誌の漫画には「ミス・オーヒュー」というステレオタイプな名前の若い中国人の妖婦がしばしば登場する。実際、レイプの現場は米海軍地区の近くで、多くの中国人売春婦がよくたむろしていた。他方、都市部の中国人女性の間には、エキゾチックな性的幻想も存在していた。いわゆる「ジープ・ガール」はアメリカ人 GI と一緒に主要都市の街路にあるダンスホール、レストラン、ホテルに出かけたが、彼女たちは占領期の日本でパンパンと呼ばれた売春婦とは違って、そのほとんどがアメリカ人とデートをする上流階級の中国人少女であった。²⁴ 女性美の新しい基準が形成されていくなかで、男らしいアメリカ兵士は、英語やダンス、スケートを学び、ハリウッド映画、ジャズ、ナイロン・ストッキング、煙草、酒を消費する現代中国の少女たちに、新しいタイプの性的スクリプトを提供した。誇り高い「ジープ・ガールズ」のなかには、「フォーリング・ガールズ」の他に、中国人大学生たちもいた。

半年間の裁判の間、レイプは現代中国で初めて公的な話題となった。新聞はレイプの定義を探究する一連の記事を載せた。汚された衣服やひっかかれた両脚から、陰毛の状態、膣の裂傷、なくなった精液まで、詳細な身体検査の記録が公表された。法廷の論戦では、性交に関する分かりにくい専門用語が細かく論じられた。中国の歴史で初めて、穢された女性の身体が公にさらされ、公の舞台で著しく「科学的」な言葉で全国的に論じられた。メディアのセンセーションは、中国における女性の「美德」を左右する文化的概念を明らかにし、変化させつつ、個人的な問題に関して前例のない新しい言説を創りだした。

人の契機

戦時の悲劇の只中で、冷戦のイデオロギー的対決と紋切り型の外交史の大きな物語の食い違いの背後に、より微妙なものを明らかにする無数の隠れた契機があった。中国人大学生たちはプラカードやポスターに、日本人やロシア人を描写するのに用いたのと同じ言葉を用いて、「アメリカ人の悪魔、けだもの、酔いどれ兵士」と書き、また、「君は孤独で、ホームシックにかかっている一家に戻りなさい」といったメッセージを書いた。²⁵ 太平洋戦争はすでに終わっており、天津のホームシックにかかった海兵たちは実際、おそらく彼らの中国からの脱出を加速させることを期待して、学生のデモンストレーションを応援した。彼らの多くは日本軍との長く消耗する戦いの後も中国に駐留していた。おそらくそれは彼らすべてにとって悲嘆にくれた時期であっただろう。

知られていないことが多くある。2 人の主要な登場人物であるレイプ容疑者ウィリアム・ピアソンと被害者沈崇は共に物語から消え失せている。私たちは、当時 23 歳であった伍長が 2001 年に亡くなり、南カリフォルニアのテンプル・シナイ共同墓地に埋葬されたことを知っている。彼は 1941 年に軍隊に志願し、無慈悲なガダルカナル作戦を生き残った後、1945 年にもう 2 年の期間で再入隊した。私たちはまた、沈崇が名前と大学を変え、専攻も英語からロシア語に変えて、1949 年以後に彼女の家族が台湾に移住した後も共産主義中国にとどまっ

²³ Gail Hershatter, *Dangerous Pleasures: Prostitution and Modernity in Twentieth-Century Shanghai* (University of California Press, 1999) を参照のこと。

²⁴ Adam Cathcart, "Atrocities, Insults, and 'Jeep Girls': Depictions of the U.S. Military in China, 1945-1949," *International Journal of Comic Art* 10, no. 1 (2008): 140-54.

²⁵ Robert Shaffer, "A Rape in Beijing, December 1946: GIs, Nationalist Protests, and U.S. Foreign Policy," *Pacific Historical Review* 69, no. 1 (2000): 37 から引用。

たことを知っている。彼女の父親は、アメリカ領事への私信の中で、中国におけるレイプされた女性への社会文化的タブーを理由にして、娘がアメリカに行くための通行許可証を発行してくれるよう懇願している。北京レイプ事件の被害者としての沈崇のアイデンティティーは、彼女が亡くなる2014年の数年前になってようやく確認された。

まだ他にもある。沈崇の身体検査官であった日本で教育を受けた医師は、彼がレイプの証拠は確認されなかったと証言してからは、裏切り者と呼ばれた。当時の北京大学学長で長くアメリカ自由主義の支持者であった胡適は、アメリカの司法制度に深い失望を感じた。ジョージ・マーシャル将軍は、米兵の虐待に抗議する学生のデモ参加者に話すにあたって人目を惹く制服の海兵をあてがわれると怒り出した。また、ジョン・レイトン・スチュアート大使は、ワシントンに対して最初の評決を覆すことに反対する強い調子の手紙を書いたが、徒勞に終わった。11歳まで中国で育てられた宣教師の息子であるスチュアートは、二世にわたる彼の家族と共に、その人生の大半を彼の最後の願いとして遺骨が埋葬された中国に捧げた。しかし彼は、毛の有名な1949年の『さらば、スチュアート』によってのみ中国ではよく知られた人物となっており、そこでは彼は「アメリカの侵略政策が徹底的に失敗したことの象徴」と呼ばれている。²⁶

これらの物語は、傷つけられたものが受けるに足る正義や隠された真実のためにということのみならず、それらが冷戦の初期の偶発的な契機における、かつての盟友だが現在は互いに信頼を失っている中国と米国との相互作用の複雑さを明らかにしているがゆえに、語られ続けている。10年余りのうちに、共産主義者が統治する中国は朝鮮でのアメリカとの戦争に突入していく。

そのころにはもう微妙さはなくなっているだろう。アメリカは大規模な宣伝と動員を通して、明らかに帝国主義的侵略者となり、中国は完全にその唯一のモデルであり、支援者としてのソビエト連邦の側に完全に傾いた。イデオロギー的相違は人種、階級、ジェンダー、善意、博愛の伝統、この時代の決定的な言説としてのその他の要因に打ち勝った。おそらく、1945年から1948年の反米主義との不気味な類似点を思い起させるのは、幻想と侵略の恐怖がないまぜとなり、アメリカ認識がもう一度矛盾をはらむようになった、1990年代以来のより最近の反米主義である。

²⁶ “他是美国侵略政策彻底失败的象征。原文は、毛泽东，《别了司徒雷登》，一九四九年八月十八日にある。〈毛沢東『さらば、スチュアート』(1949年8月18日) 毛沢東選集第四巻、外聞出版社〉